

令和5年度第1回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会 会議概要

- 1 会議名 令和5年度第1回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会
- 2 日時 令和5年6月14日 午前10時30分から午後0時00分まで
- 3 場所 安曇野市役所4階大会議室
- 4 出席者 安曇野市 市長 太田 寛、政策部長 渡辺 守、商工観光スポーツ部長 鳥羽 登、
教育部長 矢口 泰
千曲川河川事務所 所長 中根 達人
安曇野建設事務所 所長 小林 宏明
松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文
信州大学キャリア教育・サポートセンター 専任講師 勝亦 達夫
2000年シドニー五輪カヌースラローム日本代表 安藤 太郎
安曇野市商工会 青年部部長 岩垂 巧磨
安曇野市観光協会 企画営業課長 佐藤 亜紀子
合同会社うずまき（龍門測てらす） 横内 健人
案内人倶楽部・安曇野市地域通訳案内士 長島 美樹
株式会社MIGRANT（アウトドア愛好家・民泊経営・一級建築士）小穴 真弓
アルプス女性企業家会議会長 石田 恵美
- 5 事務局 政策経営課長 黒岩 一也、企画担当係長 白鳥 和子、企画担当主査 内川 聡介
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 記者 5人
- 8 傍聴者 1人
- 9 会議録作成年月日 令和5年6月14日

協議事項等

◎会議次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 策定委員の委嘱について
- 4 出席者紹介・事務局紹介
- 5 議題
 - (1) 組織体制の説明
 - (2) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定に向けて
 - (3) 現状把握調査等の報告
 - (4) 質疑応答・意見交換
 - (5) 今後のスケジュールについて
- 6 閉会

3 議題

(1) 組織体制の説明

【事務局説明】

- ・分科会（水・里山・地域連携）を設置し、意見・アイデア等を集めることとする。
- ・分科会等の意見を集約及び各種調査を行った上で構想案の取りまとめを行う。
- ・策定委員会にて取りまとめをもとに基本構想を協議することとする。
- ・基本構想の中でかわまちづくり計画も進めていくこととする。

≪承認≫

(2) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定に向けて

【事務局説明】

- ・明科地域における川や山を生かしたアウトドアアクティビティ・スポーツ等の振興につながる「安曇野市東部アウトドア拠点（仮称）」の整備に向けて本構想を策定する。これにより、過疎地域の指定を受けた明科地域の賑わいの創出と活性化を目指す。
- ・加えて、市民にとって集いやすい・活用しやすい場となるよう、また、観光・交流拠点として高い誘客性・機能性を有する場となるように、多様な市民の声や専門的知見を取り入れ、本構想を取りまとめしていく。
- ・「第2次安曇野市総合計画」をはじめ、「第2次安曇野市観光振興ビジョン」、「安曇野市過疎地域持続発展計画」など各種関連計画と連携・調整を図りながら、明科地域の賑わい創出と活性化に向けたビジョンづくりに取り組む。
- ・構想の進行状況や社会情勢等に応じて延長もしくは見直し等を検討することとする。

≪承認≫

(3) 現状把握調査等の報告

【事務局説明】

- ・「第2次安曇野市総合計画」をはじめ、「第2次安曇野市観光振興ビジョン」、「安曇野市過疎地域持続発展計画」など各種関連計画との連携・調整を目的とした各種関連計画の報告。
- ・明科地域や競合・市場トレンド等の事業環境に関する調査の報告。
- ・明科エリアの河川、里山、まちづくり等に関わる団体・事業者を対象に実施するヒアリング調査の状況報告。
- ・第2回策定員会以降、ヒアリング調査の結果及び上記現状把握調査の分析結果を提示する。
- ・前川について、カヌー競技場としての現状・成果や課題、ニーズに関する関係者の声等の調査を追加で実施する。

(4) 質疑応答・意見交換

【委員】

・現状把握調査の P.32 でインバウンドの人々からカヌーやカヤックの体験したい方が 20%と示されており、思ったよりニーズが高い。その中で他地域ではリバーアクティビティに関する空間利用の取組事例があるが、千曲川・犀川流域では少ない印象である。このような拠点整備はおそらく重要なキーワードである。

・現状把握調査の P.8、安曇野観光で長峰山を目標に来ている人が少ないのがもったいない。ガイド不足も問題で、ガイド育成を進めてビジネスになっていく形でないかと継続が難しいのではないかと考えている。

・安曇野市の観光の課題に、二次交通が挙げられる。また、滞在日数は 1 泊が多く、長期滞在の機会を逃してしまっているのはもったいない。趣味のツアーはリピーターを増やすのに良いと考える。

・政府が策定する生物多様性国家戦略では、生物多様性保全のために 2030 年までに日本の陸と海の 3 割の保全を目指している。戦略の中で、環境教育についても触れられている。長野県の不登校児童生徒数の割合は全国で 4 番目に多いが、自然体験は不登校児童生徒に良い影響を与えることがさまざまな論文で実証済みであり、子どもたちの教育という観点は考慮すると良いのではないかと考える。

・オフシーズンの対策で一番手っ取り早いのが、イベント。松本地域では 7~9 月に 6 割くらいが行われている。雪の有無もあるが、イベントを実施していくのが手ではないかと考える。

・修学旅行でラフティングを必須としている学校もあるので、そういったものも積極的に取り込むとよい。

・今回の構想に関して、地域の人たちに愛されるべき施設であり、ガイドの方も地域を愛しながら地域の良さを伝えたいという思いのある人が良いと考える。

・パックラフトで川下りをした際、三川合流など安曇野が本当に水のまちなのだと実感し、とても感動した。しかし、明科地域が「水のまち」という認識が地元・観光客の中で薄い。「水のまち」という認識が生まれると明科がその拠点だという印象がついてくると考える。また、子ども連れの家族が犀川沿いで川遊びをしやすい場所と、カヤックのスタート地点が無いと、こういった環境が整備されると良い。

・これからの観光を考えると、この拠点ひとつだけでビジネスモデルは成り立たない。そういった中で、みなさんが川や山の話がされた通り、この拠点はインターフェースになると考える。その際、「アウトドア拠点」という名前ではなく、アウトドアをやらない人も行きたくなる要素が必要になってくると思う。周りの資源と繋げる、福祉や歴史・文化、防災の視点を入れるなど。防災は、市民にとって安心できる場所になり、応援したくなる施設になるのではないかと考える。

・実際に拠点ができた際には、アウトドアと言わずとも地域振興、地域の拠点となる名前で考えていきたい。

・教育の観点では、外から来た方にカヌーの環境として評価されることもいいことだが、地元の方々、小中高生やスポーツクラブの子どもたちがカヌーに親んでもらえるようになると良い。

・この拠点は集客施設ではあるが、地域の中で、物産や情報発信、災害・防災で活かしていく意味があると思う。環境教育について是非考えていきたい。色々な要素があるため、様々な視点を取り入れたものを目指すのが考えているところである。

・これまでまちづくりの取組みの中で、アウトドアアクティビティの活用は考えてきたが、まちなかと結びついてこなかった。動線・物理、人の面でも繋げていく必要があると考えており、今回の拠点がそのきっかけになれば良い。現状把握調査の中で交通アクセスが良いとあったが、南北はそうである一方、それが地域を分断している面もある。東西の動線を串刺しにできると良いと考えている。

・ターゲットをどこに置いて計画するかにより変わるので、議論をさせていただきたい。プロや初心者両方の視点を持てることが必要ではないかと考えている。

・明科の魅力は人だと思う。人で繋がるものや体験したもの、ふれあいが、また来たいに繋がるため、どんな体験ができるかが旅行の目線では大切ではないか。大人でも子どもでも安曇野に行って良かったと思える体験ができれば良いと思う。

・3川が合流しているのは世界的にも珍しく、特別な場所。長峰山から川が良く見える。明科を中心に、山も川も通じて素敵な拠点にできればいいのではないか。

・ウォーターアクティビティという観点に関心を持っていない人たちに向けた PR が重要ではないか。また、家族で行くときにアクティビティを体験できないような人も楽しく過ごせるよう、考えられると良い。防災についても、安全な施設、安心して来られるようなものにしたい。

(5) 今後のスケジュールについて

・次回、第2回策定委員会は8月9日(水)の開催を予定している。

・全体のスケジュールについては、進捗により、前倒しもしくは見直し等を検討する。

《承認》